

豪雨災害時のアンダーパスでの自動車浸水事故を出さない 方策



令和8年10月12日

中川 保

アンダーパスとは

交差する鉄道や道路などの下を通過するため、周辺の地面よりも低くなっている道路。

そのため、地形的に雨水が集中しやすい構造となっている。

近年、全国各地で多発する集中豪雨（ゲリラ豪雨）により、アンダーパス冠水によって車輛が水没し、最悪の場合車輛内の人命が失われることもある。

*トンネル (tunnel)とは

道路や鉄道、水路などを通すために、山や地下、海底、河川の下などを掘り抜いて造られた通路のこと。

つまり、「地盤や障害物の中を通るために造られた通路全般」のこと。

アンダーパスは全国に約3700箇所ある（令和7年3月末時点）

浜田市内では6箇所（別紙参照）

- ①田町JR下 ②周布JR下 ③下府駅近くJR下
- ④熱田バイパス入口国道9号線下「かさがら地下道」
- ⑤三隅古湊JR下 ⑥三隅湊浦JR下

アンダーパス冠水で車輛水没危険基準

国が示す危険の基準は、水深のセンチメートル(cm)の値ではなく

その車体迄の位置のこと

- ①水深が車輛の床面を超えたとき→エンジン・電気装置等に不具合発生
- ②水深がドアの下端にかかったとき→車外の水圧で内側からドアを開けにくくなる
- ③水深がドアの高さの2分の1を超えたとき→内側からドアをほぼ開けられなくなる

タイヤ半分浸かったら危険水域



浜田市内 アンダーパスの有る場所（6箇所）



* 全国では約3700箇所（令和7年3月末時点）

① 田町JR下



② 周布JR下



③ 下府駅近く JR下



④ 熱田バイパス入口国道9号線下



⑤ 三隅古湊JR下

⑥ 三隅湊浦JR下



レベル5大雨特別警報

が発表されたときの車運転の注意点

浸水が懸念されるときは
車での移動を控えてください！
冠水した道路への進入は
命に関わる危険があります
安全を最優先に行動しましょう！



車はわずか**30cm程度**の浸水でも**走行不能**になる場合があります



エンジン停止や水圧で
窓やドアが**開かなくなります**

万が一、ドアが開かなくなった場合の備えとして、
脱出用ハンマーをすぐに使える位置に！



徒歩または**早めの避難**を心がけ、

やむを得ず車を使う場合は**冠水した道路を避けてください**

内閣府（防災担当）・警察庁・消防庁・国土交通省・気象庁

アンダーパス（通常時）



アンダーパス（冠水災害発生時）イメージ



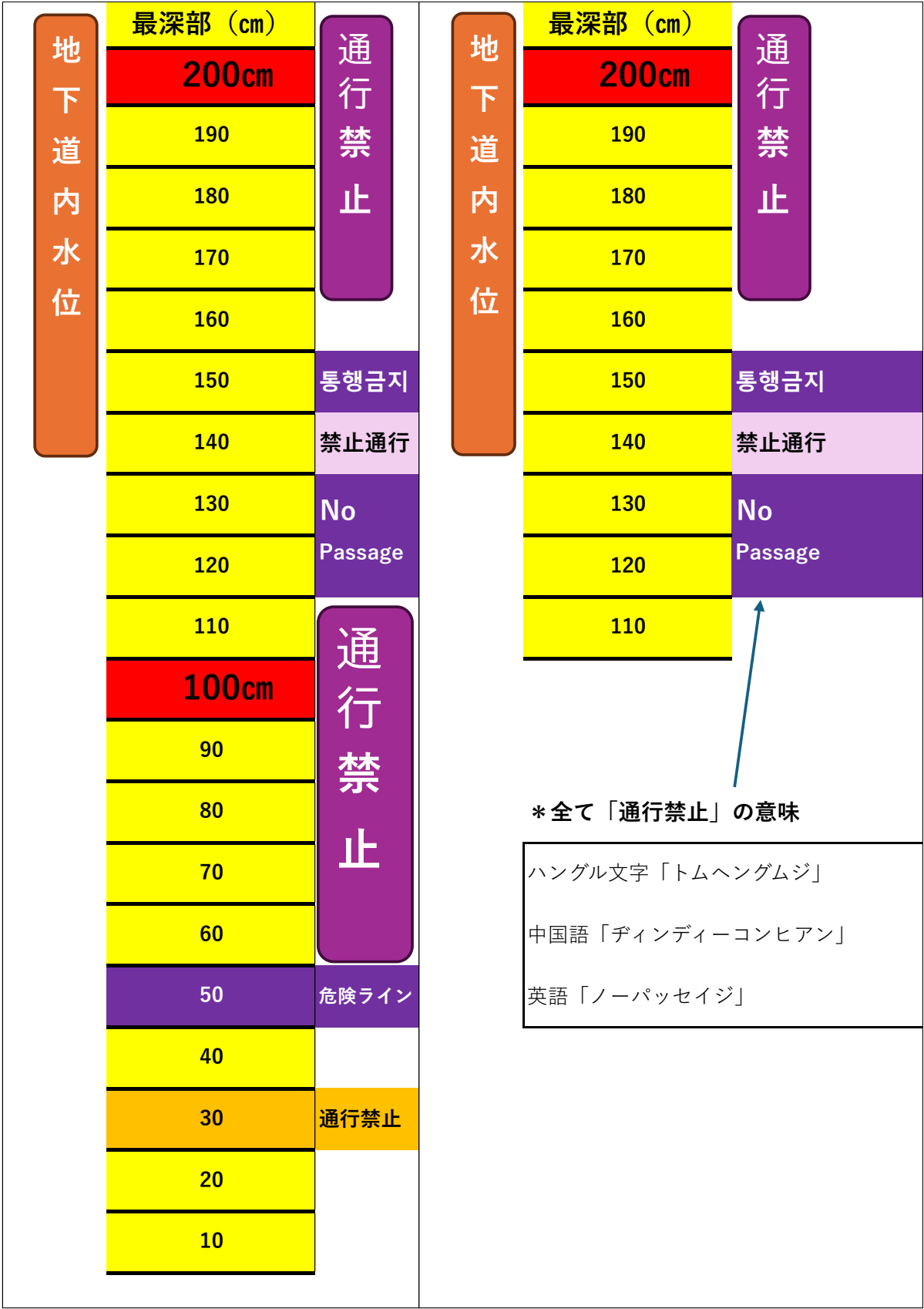
1・河川危険水位表示例→日本全国多くの河川で対応



2・アンダーパス危険水位表示例→表示例は少ない



泥水が入ってきたらほとんど見えない（夜だと尚更）

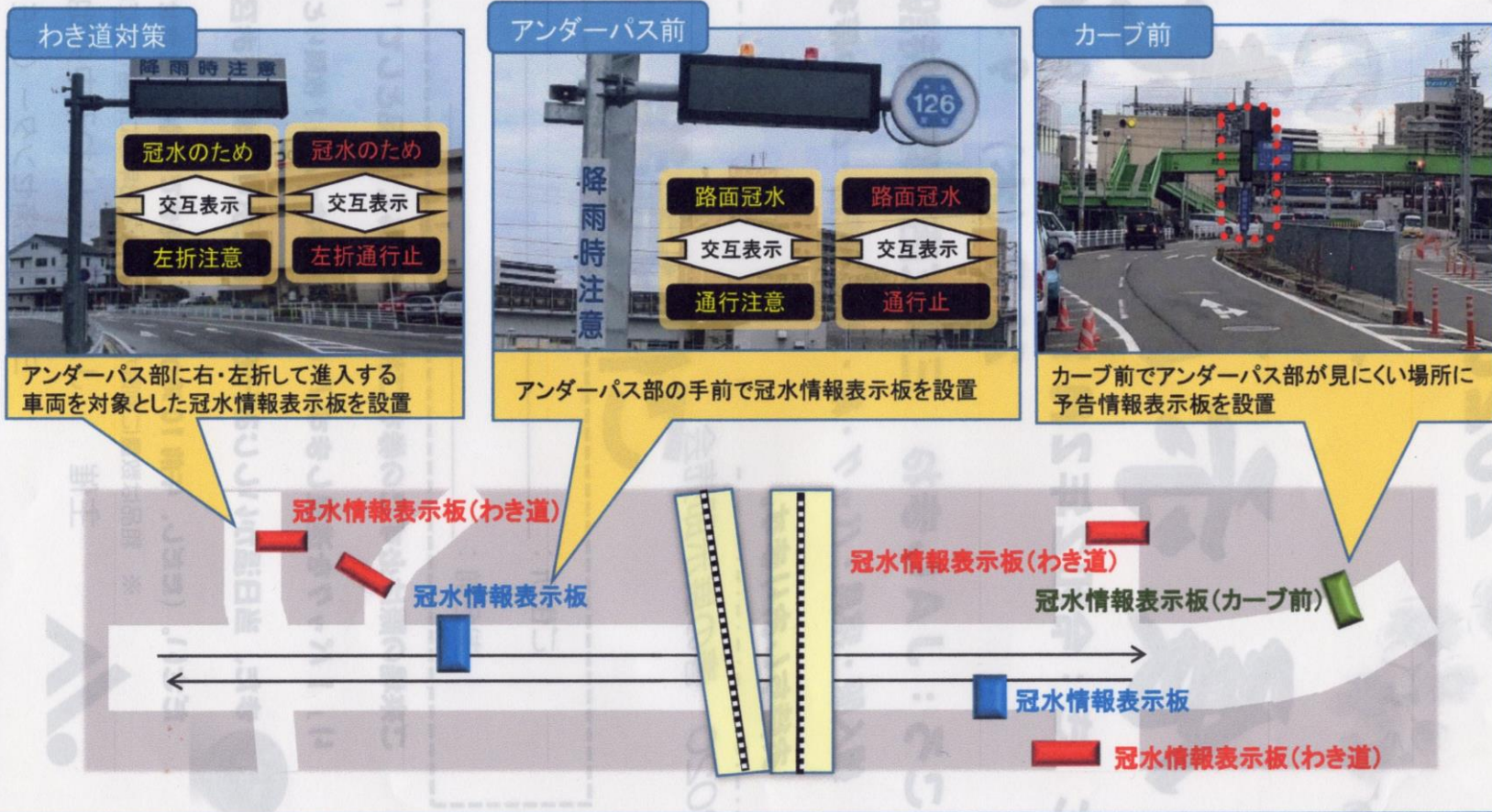


【例2】冠水情報表示板

水位センサーと連動し 水位(注)に応じて自動的に通行規制表示(「通行注意」、「通行止」等)が可能 (当局現地調査193か所中92か所で設置)

(注)道路管理者や設置箇所により設定水位は異なる(例:5cmで通行注意、15cmで通行止 など)。

◆ 愛知県の例 本例では、わき道から、また、右・左折してアンダーパス部に進入する車にも配慮して設置している。



【例3】物理的な通行規制措置(固定設備)

大雨により冠水したアンダーパスに道路通行者が進入しないための通行規制措置は、主にバリケード(工事現場等で見られるもの)を現場へ運び設置することにより行われているが、下図のような設備の整備例もみられる。(当局現地調査193か所中18か所で設置)

◆三重県の例

迂回路を示したゲート式のバリケード



通行を規制するとともに、迂回路を表示

◆岐阜県の例

ロープ格納型封鎖装置

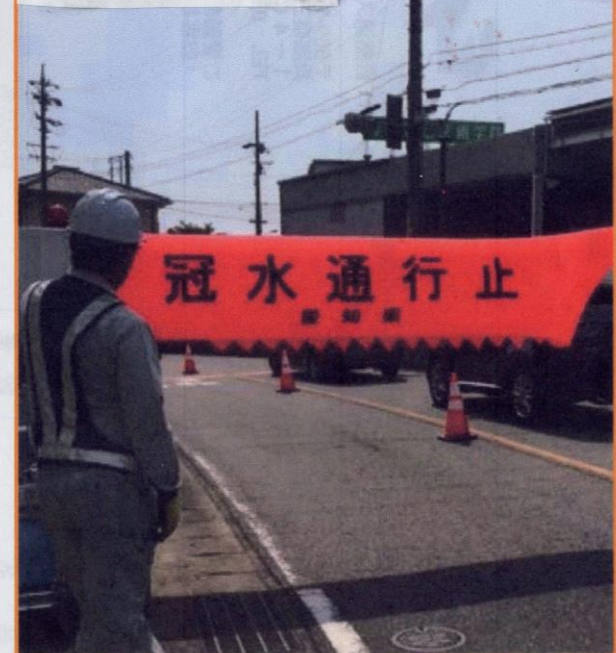


通行規制時、バリケードの運搬の必要がなく、通行止措置を迅速に行うことが可能

◆愛知県の例(仮封鎖)

バルーン式仮封鎖装置

ミライズ公共設計(株): エアー遮断機



道路冠水想定箇所に設置された水位センサーと連動し、通行止水位に達した時点で膨張。通行止めのため、委託業者が到着するまでの間、仮封鎖を行うことが可能

【例4】水位表示

道路通行者に対する日常の注意喚起及び冠水時におけるアンダーパスへの進入の回避を目的として、側面や路面に水位(注)を表示
(当局現地調査193か所中51か所で設置)

(注)単なる目盛だけでなく、道路通行者への注意喚起等を意識していることがうかがえるもの

側面表示

◆中部地方整備局の例



◆小牧市の例



◆桑名市の例



路面表示

◆愛知県・清須市の例





設置イメージ